

授業科目名： 発達障害の判定とその教育的対応Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 西永堅 担当形態： 単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 (特別支援)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理・生理及び病理に関する科目・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発達)		
「学位授与の方針」との関係 DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる (専門知) DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる (実践力)			
授業のテーマ及び到達目標 1.発達障害に含まれるLD、ADHD、自閉スペクトラム症、知的障害等の判定のための心理検査にはどんなものがあるかを知り、その検査法を身につける。 2.発達障害のある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える心理検査として、実際にWISC-IV、K-ABCⅡ等検査方法を理解する。 3.心理検査の結果のまとめ方を学習し、LD、ADHD、自閉スペクトラム症、知的障害等の特徴と個別の手立て (ICT及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む)及び自立活動における個別の指導計画について理解する。 4.心理検査の結果を活かした特別の教育課程の編成方法及びカリキュラム・マネジメント、各教科等の指導の授業設計及び			
授業の概要 各発達障害の定義について学ぶ。また、それらの障害を判定するためのアセスメント方法を実際に学修していく。本授業はスクリーニングのみの授業である。なお、発達障害の判定とその教育的対応はスクリーニングのみの科目であるが、(Ⅰ)と(Ⅱ)に分かれており、(Ⅰ)では学習障害の定義とその教育的対応、心理検査の歴史と、心理検査の方法を学ぶ。			
授業計画 特別支援教育の発展に伴い、新たにその対象に加えられるようになった「学習障害 (LD)」を中心に、判定方法とその教育的対応の具体的な方策を学習することを目的とする。 学習障害 (LD)とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」等の学力の習得と使用に著しい困難を有する者を指し、文部科学省の調査によれば、ADHD (注意欠陥/多動性障害)、高機能自閉症等と合わせると学齢児の6%以上存在することが指摘されている。これらの子どもの適切な教育のためには、その判定の方法が確立していなければならない。またその判定技能を身に付けることが必要である。学力に遅れが見られる児童生徒について、特に算数・数学、国語の学力を精査し、LDの疑いがあれば、医学的な検査を専門医に依頼するとともに、各種の心理検査を実施し、その結果に基づいて適切な教育的対応を行う必要がある。本授業は、一般的発達検査、知能検査とともに、WISC-IV、K-ABCⅡ等LD等の判定に必要な心理検査の実技を身に付けるとともに、その教育的対応について学ぶことを目的・ねらいとするものである 第1回：心理検査の活用 第2回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える① 知能指数、知能検査について 第3回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える② WISC-IVとは：全検査IQ・合成得点について 第4回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える③ WISC-IVとは：言語理解・知覚推理について 第5回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える④ WISC-IVとは：ワーキングメモリー・処理速度について 第6回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える⑤ K-ABCⅡとは：認知尺度と習得度尺度について 第7回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える⑥ K-ABCⅡとは：継次処理・同時処理について 第8回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える⑦ K-ABCⅡとは：学習能力・計画能力について 第9回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える⑧ その他の心理アセスメントについて 第10回：LDがある子どもの知能検査結果の特徴と個別の手立て (ICT及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む)及び自立活動における個別の指導計画 第11回：ADHDがある子どもの知能検査結果の特徴と個別の手立て (ICT及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む)及び自立活動における個別の指導計画 第12回：自閉スペクトラム症である子どもの知能検査結果の特徴と個別の手立て (ICT及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む)及び自立活動における個別の指導計画 第13回：検査結果の保護者・本人への伝え方、指導・支援につながる活かし方 第14回：検査結果を活かした特別の教育課程の編成の意義と方法、カリキュラム・マネジメント、自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の指導の授業設計及び授業改善 第15回：特別支援学校のセンター的機能の役割、検査結果を活かした家庭や医療、福祉及び労働機関との連携 定期試験			
スクリーニングでの学修 スクリーニングのみの科目のため、第1回から第15回の内容を、グループワークで実践的に学ぶ。Iで用いた資料を持参すること。			
テキスト (1) 安住 ゆう子 編著 (2019) 『改定新版子どもの発達が気になるときに読む 心理検査入門：特性にあわせた支援のために』 合同出版 ISBNコード：9784772613835 (2) 文部科学省(平成29年)『特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版 ISBNコード：978-4303124243			
参考書・参考資料等 (1) 山口薫(2011)『新訂親と教師のためのLD相談室』中央法規 ISBNコード：9784805835487 (2) 山口薫(編集)・西永堅(編集)(2010)『新訂学習障害・学習困難の判定と支援教育』文教資料協会 ISBNコード：9784938649272 (3) 本講義で配布する資料			
学生に対する評価 スクリーニング評価 (50%)、科目修得試験 (50%)			